

栄養価に着目 ■数値化し訴え

徳島県JA東とくしまは農産物の栄養価に注目した生産部会を創設する。東京の野菜加工会社、デリカフーズのグループ会社がつつた栄養価基準を活用し、小松菜やオクラなどを中心に取り組む。農薬使用を減らすなど、栽培過程にもこだわる。農産物の栄養価とおいしさを数値で表す新基軸で、他産地と区別化する。

生産部会を創設

部会は1月末までに立ち上げる予定。小松菜やオクラ、トマト、キュウリなどを作る5、6人の生産者が参加する見込み。水稲や果樹生産者も募る。

栄養価の指標はメデイカル青果物研究所(デリカフーズグループ)が旬の農産物の栄養価とおいしさを数値で表した「野菜の健康診断」(デリカスコア)を活用。①糖度②抗酸化力③ビタミンC④硝酸イオン――の含有量を数値で示す。同社によると、デリカスコアを指標にした部会を立ち上げる産地は全国初。

4社で水稲やホウレンソウなどを生産する阿波農産の濱田浩明さん(45)は「数値化することで分かりやすく消費者も受け入れやすい。生産者の情報交換の場としても期待している」と歓迎する。JAの西田聖副参事は「栄養価という新たな価値で消費者に訴求し、産地を盛り上げていきたい」と強調する。

デリカフーズは外食・中食向けに野菜の取扱量が前年で約12万ト。「全国に展開している外食チェーン店の全国シェアの5%を占める」(同社)としており、デリカスコアを取り入れることで、同社との取引拡大が期待できる。